

「やっと親きょうだいひとつに」

弟2人「平和の礎」に刻銘

サイパン戦で家族失った 藤沢の崎山さん

太平洋戦争末期の沖縄戦で組織的な戦闘が終結したとされる二十三日の「慰霊の日」を前に、沖縄県糸満市の平和祈念公園にある戦没者の氏名を刻む石碑「平和の礎」に、藤沢市に住む崎山さん(80)の弟2人の名前が新たに刻銘された。これで自分を除く家族六人の名前がそろって刻まれた崎山さんは「やっと親きょうだいひとつになれた」と静かに笑みをたたえる。

(吉岡潤)



弟2人の刻銘を喜ぶ崎山さん(いずれも藤沢市で)

サイパンの戦い 1944年6～7月、太平洋のサイパン島で日米両軍が繰り広げた激しい攻防戦。日本の民間人も巻き込まれ、沖縄からの移住者が数多く犠牲になった。日本人が追い詰められて身を投じた島北端の崖は「バンザイクリフ」の呼び名が付いた。

「どんな理由でも戦争起こすな」

本に引き揚げてきた崎山さんは母の兄らがいた逗子に住み、十二歳で叔母の養子となった。

帰国後に戸籍をつくった際、「弟たちは名前がはっきりしないということが入らなかった」という。そのため、崎山さんは平和の礎への申請を諦めていたが、長女直子さん(50)が「何とかしてあげたい」と沖縄県とやりとりして、今年、追加刻銘が実現した。

サイパンで逃げたとき、そこ(ここ)に横たわる遺体を踏んだ。「ぐにやぐにやした感触を今も忘れない」と顔をゆがめる。「どんな理由でも戦争は起こしちゃいけない」と、憲法九条の意義を訴え続けている。

平和の礎には何度も足を運んでいる。手元には、いどこが紙に写し取ってくれた両親ら四人の刻銘がある。「今年が新型コロナウイルスで無理だが、来年六月は沖縄に行つて、六人の名前をこの目で確認したい」と決めている。



平和の礎から紙に写し取った両親と姉、兄の刻銘

やまゆり園事件

県に施設内虐待との関係解明求め要望書

きょうされん

県内の障害者事業所でつくろきょうされん神奈川支

「かながわ共同
は、運営する社
果関係を明らか
園での虐待と犯
事件の刑事裁判
県への要望書
る要望書などを
二覧したかか



箱根の美術館 ゆったり空間に

箱根ガラスの森美術館

町の庭園に、一万五千粒
リスタルガラスをちりばげば
「アジサイ」が登場した。
コロナウイルス感染拡大に
休館後、六月から営業を重
梅雨の庭園を七色の輝きを
る。七月下旬まで。

ガラスのアジサイは三
で、赤、青、紫など七色。
は王妃をイメージした品
ら、ピンクのマリーアント

梅雨空きらめく ガラスアジサイ